

2025年度 授業コード: 81100900

授業科目	*助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)				実務家教員担当科目	○			
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期		
担当教員	古賀 玉緒/山田 恵/新郷 朋香								
授業概要	<p>正常経過にある褥婦の身体・心理・社会的な経過について学修する。さらに、事例を用いて自己練習やグループワークに主体的に取り組み、母子一体の視点をふまえた褥婦の心身の回復や母親役割獲得に向けた助産ケアを習得する。</p> <p>以上のことについて、実務家教員として臨床で助産師としての実務経験を有する教員が教授する。</p>								
授業形態	対面授業		授業方法	ディスカッション、グループワーク					
<b>学生が達成すべき行動目標</b>									
標準的 レベル	<p>1. 正常経過にある褥婦の身体回復や心理・社会的な適応に必要なケアについて根拠に基づき説明できる。(DP1-1, 2-1)</p> <p>2. 褥婦の健康状態を把握するための基本的な診察やケアを安全安楽に実施できる。(DP2-2)</p> <p>3. 褥婦の課題についての解決策を見出すために取り組むことができる。(DP3-1)</p> <p>4. 褥婦のケアを実践するうえで助産師として必要な倫理的な態度について述べるができる。(DP3-2)</p>								
理想的 レベル	標準的レベルに達したうえで、褥婦や家族に関する課題や、対象のケアのために必要な自己の知識や技術の向上を目指して主体的に学習に取り組むことができる。								
<b>評価方法・評価割合</b>									
評価方法		評価割合 (数値)			備考				
試験		70			0				
小テスト									
レポート									
発表 (口頭、プレゼンテーション)		20			0				
レポート外の提出物		5			0				
その他		5			授業における発言や積極性、レポートの提出状況にて評価します。				
<b>カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング</b>									
DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	-	ナンバリング	MI21203J
<b>学習課題 (予習・復習)</b>									1回の目安時間 (時間)
教科書や参考文献のテーマに該当する箇所を読み、重要箇所を下線や付箋を示し講義に臨む。									1
<b>授業計画</b>									
第1回	<p>テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア (1) (古賀玉緒)</p> <p>・産褥経過に伴う生理的变化と予防的ケアについて解説する。</p> <p>全身の回復</p> <p>退行性変化について</p>								
第2回	テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア (2) (古賀玉緒 林好美)								

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的・心理的・社会的・文化的側面からじょく婦の健康状態を診断し、全身および退行性変化の回復に向けた支援に関する演習を行う。</li> <li>退行性変化を促進させるためのケア</li> <li>全身の回復を促すためのケア</li> <li>退行性変化の促進や全身回復に関するセルフケア能力を高めるためのケア</li> </ul>
第3回	<p>テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会敵診断とケア（3）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産褥経過に伴う生理的变化と予防的ケアについて解説する。</li> <li>進行性変化について</li> <li>哺乳の方法について（母乳・人工）</li> </ul>
第4回	<p>テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア（4）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的・心理的・社会的・文化的側面からじょく婦の健康状態を診断し、進行性変化の促進に向けた演習を行う。</li> <li>進行性変化を促進させるためのケア</li> <li>授乳に関するセルフケア能力を高めるためのケア</li> </ul>
第5回	<p>テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会敵診断とケア（5）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産褥経過に伴う心理的特徴と予防的ケアについて解説する。</li> <li>産後の経過に伴う褥婦の心理的变化について</li> <li>母親への適応過程について</li> <li>母子相互作用や愛着形成について</li> </ul>
第6回	<p>テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア（6）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的・心理的・社会的・文化的側面からじょく婦の健康状態を診断し、育児に必要な技術の習得に向けた演習を行う。</li> <li>母児同室時における留意点の確認</li> <li>抱き方や更衣などの方法</li> </ul>
第7回	<p>テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア（7）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一か月健診までの褥婦の身体的・心理的变化と支援について解説する。</li> <li>身体回復にむけたセルフケア</li> <li>受胎調節（家族計画）</li> <li>新しい家族としての再構築について</li> </ul>
第8回	<p>テーマ：産褥期の身体的・心理的・社会的診断とケア(8)(古賀玉緒)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的・心理的・社会的・文化的側面からじょく婦の健康状態を診断し、退院に向けた支援に関する演習を行う。</li> <li>各避妊具の使用方法</li> <li>一か月健診までにおける身体回復にむけたセルフケア</li> </ul>
第9回	<p>テーマ：保健指導の実際（1）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産褥期の助産技術を学ぶ。</li> <li>各育児技術の方法を確認しながらグループメンバーと協力しディスカッションをもちながら技術演習を主体的に取り組む。〈1〉</li> <li>なお、第9回と第10回と第11回は連続して行う。</li> </ul>

第10回	<p>テーマ：保健指導の実際（2）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産褥期の助産技術を学ぶ。</li> </ul> <p>各育児技術の方法を確認しながらグループメンバーと協力しディスカッションを持ちながら技術演習を主体的に取り組む。〈2〉</p>
第11回	<p>テーマ：保健指導の実際（3）（古賀玉緒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産褥期の助産技術を学ぶ。</li> </ul> <p>各自の課題を中心に技術試験にむけた自己学習に取り組む。</p>
第12回	<p>テーマ：保健指導の実際（4）（古賀玉緒 山田恵 新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模擬対象者に対する育児支援を実施する。（技術チェック）〈1〉</li> </ul> <p>なお、第12回と第13回は連続して行う。</p>
第13回	<p>テーマ：保健指導の実際（4）（古賀玉緒 山田恵 新郷朋香）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模擬対象者に対する育児支援を実施する。（技術チェック）〈2〉</li> </ul>
第14回	<p>テーマ：特殊な状況にある褥婦の支援（古賀玉緒）（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産後うつ、児の虐待ハイリスク要因となる周産期のメンタルヘルスについて解説する。</li> </ul>
第15回	<p>テーマ：特殊な状況にある褥婦の支援（山田恵）（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例をもとに支援について解説する。</li> </ul> <p>-グリーンケアについて-</p>
テキスト	<p>産婦人科診療ガイドライン産科編 2023, 日本産婦人科学会他編・監, 日本産婦人科学会事務局          助産業務ガイドライン 2019, 日本助産師会他編・監, 日本助産師会出版社          エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠・分娩期・産褥期 2020ー, 日本助産学会          必要に応じて資料を配布します。</p>
参考図書・教材 ／データベース・ 雑誌等の 紹介	<p>課題については適宜授業中で解説を行います。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>既習した褥婦の生理や看護ケアを復習し、看護技術（沐浴・ラッチオン・ポジショニング・新生児の抱き方、寝かせ方・衣類の着脱・、排気の仕方・子宮底高の測定・子宮底の輪状マッサージなど）は、その目的や方法を理解し、正しく行えるように自己学習を行って臨んでください。</p> <p>助産学実習へむけて必要な知識・技術を学びます。講義・演習では、主体的に参加し、演習時は身だしなみを整え、円滑に展開できるよう準備・後片付けも自主的に行って下さい。</p> <p>原則、授業中の携帯電話の使用は禁止します。（授業中に活用する場合は適宜、使用を指示します）</p> <p>感染予防ガイドラインを遵守し感染予防に努めましょう。</p>
学生への メッセー	

ジ・コメ ント	
------------	--